

科目名		原価計算論 I (Cost Accounting I)							
学年	学科(コース)	単位数		必修/選択	授業形態	開講時期	総時間数		
第3学年	経営情報学科	履修	1単位	—	講義	前期 90分/	30時間		
担当教員		【常勤】田川 晋也							
学習到達目標									
科目の到達目標レベル	この講義では、製造業で用いられる簿記である工業簿記と製品原価の計算方法について学ぶ。また、原価計算で算定された原価情報を会社経営の意思決定に利用する方法についても学ぶ。原価計算論 I では、主に製品原価の計算の仕方について学ぶ。								
学習・教育目標	◎	JABEE基準1(2)							
関連科目, 教科書および補助教材									
関連科目	簿記概論 I・II								
教科書	「原価計算」醍醐聰 著 (東京法令出版)								
補助教材等	プリント(演習問題)								
達成度評価 (%)									
評価方法 指標と評価割合	中間試験	期末・学年末試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	40		20					100
知識の基本的な理解 【知識・記憶、理解レベル】	◎	◎		◎					
思考・推論・創造への適用力 【適用、分析レベル】	○	○		○					
汎用的技能 【論理的思考力】	○	○		○					
態度・志向性(人間力) 【 】									
総合的な学習経験と創造的思考力 【 】									
学習上の留意点および学習上の助言									
1・2年生の頃に学習した商業簿記について復習しておくこと。授業の時は、必ず電卓を持参すること。									

授業の明細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	0 ガイダンス 1 工業簿記、原価計算	・シラバスから学習の意義、授業の進め方、評価方法を理解できる。 ・工業簿記手続きの一巡を理解できる。 ・原価の意味、原価計算の目的について理解できる。	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。
2			
3	2 費目別原価計算 ・材料費の計算 ・労務費の計算 ・経費の計算	・材料の分類と購入・出庫の仕訳が理解できる。 ・材料元帳の記帳が理解できる。 ・予定価格法が理解できる。 ・賃金の分類と支払、消費の仕訳が理解できる。 ・予定賃率を用いた賃金の処理が理解できる。 ・経費の分類と消費の仕訳が理解できる。	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。
4			
5			
6	3 個別原価計算	・原価計算表と製造勘定の関係を理解できる。 ・製造間接費の配賦計算を理解できる。 ・製造間接費の予定配賦を理解できる。 ・仕損品の処理を理解できる。	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。
7			
8	中間試験		
9	答案返却・解答解説 4 部門別原価計算	・試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解できる。 ・部門の意義、分類ができる。 ・部門共通費の配賦計算を理解できる。 ・補助部門費の配賦計算を理解できる。 ・製造部門費の予定配賦計算について理解できる。	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。
10			
11	5 総合原価計算 ・単純総合原価計算 ・等級別総合原価計算 ・組別総合原価計算	・月末仕掛品原価の計算を理解できる。 ・加工進捗度の意味を理解できる。 ・先入先出法による計算を理解できる。 ・総平均法による計算を理解できる。 ・等価係数を理解できる。 ・組直接費、組間接費を理解できる。	(予習) どのような場面で適用できるかを理解すること (復習) 課題や授業終了後の練習問題にて理解すること。
12			
13			
14			
	期末試験		
15	答案返却・解答解説 授業改善アンケートの実施	・試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解できる。	
総授業時間数			30時間